

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、26 番、日本共産党、江原一雄でございます。ただいまから一般質問を始めさせていただきます。

まず最初に、教育長にお尋ねをしたいと思います。教育行政について。今議会でも、1 番目、2 番目の議員の中からも、教育問題に関しての質問がございました。

12 月定例会の 2 日の初日。教育長から教育に関する報告がありました。その一部ですが、I C T 教育関連としまして、10 月 25 日に武内小学校、10 月 29 日に山内東小学校でタブレット端末利活用授業参観を行い、11 月 21 日には武内小学校で反転授業の授業参観を行っております。教育監を中心として、来年度からの全小学校へのタブレット端末導入に向けて推進しているところだと、このような報告がありました。

今議会で、この間教育長はこの議会で、6 月議会、9 月議会、12 月議会と教育に関する報告をしていただいておりますが、反転授業に関しては、先ほど申しましたように、この 12 月議会で初めて報告がありました。ところが、タブレット配布の発表は 5 月 9 日。新聞で、報道で私は知りました。

〔市長「あらあら」〕

そして 8 月 26 日、9 月議会の定例議会の前の、全小中学校に無線 LAN を配備する。その予算が補正に組まれました。その額、約 7,000 万円。そして 9 月議会が終わりまして、9 月 26 日、教育監を任命し、その記者発表が行われ、反転授業についての報道がされたのを 9 月 27 日の新聞で知りました。

〔市長「あらあら」〕

市長は今、「あらあら」というやじを飛ばしておられますが、紛れもなく異常ではないでしょうか。

そこで、教育長にお尋ねをいたしたいと思います。これまで教育委員会としてどのようなプロセスを議論され、教育委員会としてこの武雄市内の武雄の教育に関して、教育委員会としてどのように議論をし、プロセスを進められてきたのか。報告をまずお聞きしたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

I C T 教育につきましては、国、県ともに強力に進めると。特に佐賀県におきましては、知事、それから教育長、県教育庁ともに先進的に進めていくということで、事実、全国が注目する I C T 教育を進めておられます。

それから、I C T 教育、端末等を入れた学習の形態というのは、今後必ず日本全国に進む内容だと思います。これからの社会を考えましたときにそうであります。

それから、大幅な予算を伴うものでありますので、これは市長部局のほうの御理解もいただかないと進められないことは、もう間違いないわけでございます。

それから、委員会でお話しておりますのは、ここ数回の学力調査等の状況、家庭状況等を見ましたときに、家庭学習について非常に、ちょっと寂しいと。家庭学習と学校の学習がうまくつながっていないと。ほかの項目はいいんだけど、家庭状況については、ちょっと数値的にもやっぱり例年低いというような状況で、家庭との学習と学校の学習がつかないかというようなことを協議してくる中での反転学習であり、タブレット導入でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番 江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

先ほど私、教育長にお尋ねをしました。5月9日、タブレット配布の発表。8月26日に全小中学校に無線LANの配備。9月26日に反転教育の記者発表。武雄市教育委員会の、教育委員会の定例会の議事録をアクセスして、その様子を見てみますと、この反転教育、あるいは無線LANについての、特に教育監設置の問題等、なんら議題になっていません。特に教育監については議題に挙がっていませんでした。

そこできょう、こういう形で教育監が、2日の日から教育監がこの本議会の中に席を導入されて、答弁もされておりますが、私がお聞きしたいのは、教育委員会として、法に基づいて、教育行政における法律に基づいて教育委員会が設置され、その教育委員会の役割は種々、さまざまあります。

教育委員会としての役割は、教育委員会の職務権限は以下のとおりということで、十数項目あります。特に、学校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導および職業指導に関すること、さまざまな権能、職務権限が与えられております。そういう中で、本当に武雄市教育委員会として、このICT活用、言われておりますが、教育長は9月議会の報告ではどういう報告をされているか。

9月議会の定例会での報告内容は、電子黒板106台を設置いたします。こういう9月議会では、教育に関する報告の中で、学力向上推進のために今年度もICT機器を活用した教育による、質が高く、わかる授業の実践を推進しております。電子黒板を今年度21台新しく整備し、市立小中学校で106台となりましたと。ICT教育に関しての報告が9月議会ではこういう報告でした。

ところが、この間の経緯を見てみますと、私は先ほども言いましたが、新聞報道で聞き、市長はやじされましたが、市民にとってほとんど知らない状況のもとで、教育長自身が教育に関する報告をこの議会でしていただいている。このことが最高の情報の開示であります。

ところが、平成25年度、武雄市の教育委員会の、武雄市の教育の方針が示されております。その教育の方針。これが武雄市の教育。平成25年度、武雄市教育委員会。約16ページ

でしたかね。失礼、11 ページにわたって、武雄市の教育、平成 25 年度の武雄市の教育委員会。その重点事項の中の 5 ページ。重点事項第 6、社会の進展に対応した教育の推進、ICT 機器を活用した教育の推進という欄が設けられて、そして最後の中に情報の公開。これも述べられております。9 ページ。重点事項、教育委員会の積極的な情報公開。教育委員会や各町公民館などが行う事業の新鮮な情報発信。教育委員会会議の内容および前年度の評価結果など、積極的に情報を公開します。その 1、教育委員会の会議の公開、述べられておられます。これが武雄市教育委員会の方針であります、今年度の。

これに照らし合わせて私は質問をしておるわけですがけれども、ただいま教育長からプロセスについてお聞きしましたけれども、この間の平成 25 年度における教育委員会としての論議や方針について、どのようにプロセスで論議されてきているのか。ちょっと、先ほどの答弁ではよくわかりません。もう一度、再度どのような協議をされて推進されているのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教育委員会として極力、情報の公開に努めているというのは、もう間違いございません。先般も文教委員会のほうに、昨年度の教育委員会の外部評価について御審議をいただいたところでございます。

また公民館等含め、学校含めですね、以前と比べまして、膨大な情報の発信をしております。それから、教育委員会の会議につきましてもですね、実際にテープ取っていただいて、公開をずっとしてきているところでございます。

ICT 教育につきましても、昨年度、一昨年度と電子黒板を重点的に配置をしまして、そして今回タブレットというところで、本当にこれだけの予算化をさせていただいているということは大変ありがたく思っておりますし、そのことにつきましては、教育委員会でも会議に起こす会議、あるいは懇談、さまざまな場で一緒になるわけでありますので、話をしながら、協議をしながら進めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

総論でありまして、ほとんど具体化、いわゆる私が聞いていることについては、ほとんど教育長答えられないようですね。ということは、この 10 月 1 日から導入されました反転教育。来年度から全小学校で実施しようとしている、文字どおり、授業内容が全く変わる。そういう受け止め方をせざるを得ませんけれども、そうした教育方針が、ほとんど現場の先生も、そして保護者にとっても、そしてまた私たち、そういう議会の一人として、今進められてい

る教育の進め方に危惧を覚えている一人であります。私はそこで教育長に、教育の目的は何でしょうか。お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大きくは、人格の陶冶という等々の目的があるわけでありますが、今の論議の趣旨からいきますとですね、ずっと言っておりますけれども、知・徳・体をより高いレベルで調和させると、そういう教育のあり方を目的といたしております。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

教育の目的をお尋ねしましたが、教育長は「知・徳・体」とおっしゃいました。ただ私が聞きたかったのは、教育長がおっしゃるかと思いましたが、それは、武雄市教育の方針について書かれております。教育の目的は——始めにという欄です。御承知のようですが。

教育基本法には教育の目的として、「教育は人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」と謳われております。

ここで言われる、「教育は人格の完成を目指し」。私は、この言葉は日本の歴史の中で、戦前の、もちろん教育勅語は破棄され、教育勅語にはありませんが、あの悲惨な戦火を経て、新しい現憲法のもと教育基本法がつけられました。

ところが平成 18 年、ただいま申し上げました教育基本法の教育の目的として述べましたが、これは平成 18 年、安倍内閣第一次内閣のときに改正をされました。その改正されたのがこの文言です。

改正される前の、前教育基本法の教育の目的にはどう書かれていたのでしょうか。ちょっと紹介したいと思います。前文は一緒です。「教育は人格の完成を目指し」。ここは一緒です。次変わります。「平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた」。ここが変わりました。先ほど読みましたけれども、ここが約 30 行ばかり変わりました。最後の文章のところは一緒です。「勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わ」——、ここもかわ——1 字入っているんですね。ここ非常に重要だなと思えました。「行われなければならない」。

これは、国民の教育に対する、非常に政治の介入を許さない、「行われなければならない」というのは、日本国憲法の三原則、国民主権、基本的人権の尊重、恒久平和の原則を貫く上で、その教育が果たす役割が大きいからこそ、改正する前の教育基本法には、教育の目的が

る明確に述べられておりました。

ところが7年前、今の教育基本法の教育の目的に変えられています。しかし、前段と最後は一緒です。「教育は人格の完成を目指し」が紛れもなく教育の目的であります。いささかも武雄市教育委員会がこの路線から外れることはないでしょう。それは国民の多くの人、そしてまた、すべての人の、教育に期待を寄せるすべての国民の願いが込められているからではないでしょうか。

そこで、こうした教育基本法の流れがありましたけれども、長く教育行政に携わっていただいております教育長としての、この間の教育に携わられて、どのように教育行政をリードしていこうと思いいのか。所見を、認識をお聞かせいただければと思います。よろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

就任以来、るる述べてきたつもりでございますけれども、改めてお尋ねであります。

先ほど、人格の陶冶等々はですね、大きな目標としてあるということは申しました。質問の文脈から知・徳・体のより高い調和という今の、当面の目標を挙げたわけであります。

教育基本法等改定、改正がなされました。ほかの教育関係の諸法もいろいろ改善が、改定がなされております。これは国民的な合意でありますので、国民的合意に沿って教育を行っていくというのは、武雄市の教育長としても同じ立場でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

今の武雄市行政の推進の中で、あわせて非常に教育長にお尋ねしておきたいのは、今、11月27日。ある新聞の記事を、目を通していてびっくりしました。それは、教育委員会制度改革について、中央教育審議会の教育制度分科会に指名された答申案のことについて、認識お持ちでしょうか。

この制度の問題は、いわゆる、市長が市の、あるいは自治体の教育方針を策定して、そしてそれを教育長が推進していくという答申案の中身ではないかと思っています。こういうことが今、文科省が、あるいは第二次安倍内閣のもとでそうした教育の変更が進められようとしております。

しかし、中央教育審議会委員の中からも、このことに関しては、大変危惧の声が寄せられているようであります。私は、今回の武雄市の動き、この1、2年の間、図書館問題、ICT教育の取り組みを見ますと、市長が教育方針を策定、立案し、教育委員会はそのあとを追認する。この取り組みが顕著ではないかと申さざるを得ません。教育長の認識はいかかです

ようか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いずれも非常に多額の経費を要し、あるいは大局的な観点を必要とし、そして今後の武雄市のあり方を考えた上で非常に大きなことでございます。したがいまして、市長さんとの話し合い、あるいは教育委員会内、あるいは事務局内で論議、あるいは校長等を含めまして、話し合いをしつつですね、理解を得つつ、情報を共有しつつ、進めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

この1、2年の武雄市教育委員会の流れを見てみまして、もちろん行政側としては教育方針に基づいて、その費用、予算をつけるのは行政の最大の仕事であります。しかし、教育方針を決めるのは教育委員会であります。

ところが、「情報を共有している」、教育長申されましたけれども、現場である学校の責任者である校長、その校長会が、この反転教育の説明が11月4日ではありませんか。まして、現場で今、私は大変危惧をされ、その混乱の取り組みの状況が耳に入ってきますが、私は今の、市長自身が――後で質問もいたしますけれども、今の教育委員会のありようが、本当に子どもを思って、今の教育長の認識お聞きしましたけれども、大丈夫なのかなと言わざるを得ませんし、そこで詰めた話でございますが、教育長にお尋ねしますが。

5月23日、市長ブログで、私が6月議会で質問いたしました。「教育関係で記者会見を、来る7月1日、日曜日午後に行います。東京で私が、武雄で教育長が行います」と表明されました。このとき、6月定例議会の中で、私の質問では、市長は「楽しく待っててください」。ところが翌日6月11日。他の議員の質問で、この記者発表は延期をすると答弁されました。

このことを考えますと、この一連の流れを推察いたしますと、教育長自身が武雄で記者発表ということならば、この中身は当然教育長として、そしてまた教育委員会として議論され、その教育方針を記者発表するのではなかったのでしょうか。教育長、お尋ねしますが、教育関係での中身は何だったのでしょうか。御答弁をお願いいたします。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

議員、御理解あると思っておりますけれども、教育委員会の議決を必要なことと、そうでないこ

と、教育長に任せられていることもあるわけであります。したがって、そういうことの内容を、任せられている内容という判断でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

では教育長にお尋ねしますが、教育監のポストについて、教育委員会で議題になって、決定したのはいつですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

教育監の採用につきまして、教育委員会で議決する必要はございません。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

中身突っ込んだ理解はしていませんけれども、教育方針を決定する上で、教育監のポストは右側ですよ、教育長の隣ですよ。以前は教育部長がお座りでした。

明々白々、教育方針について、教育監というポストはどこが決めたんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

改めて申し上げますけれども、教育の方針につきましては、先ほどから御指摘のとおり、武雄市の教育ということで、教育委員会で議決をいただいたものでございます。

この方針に基づきまして、具体的な政策を実施をするというところにつきましては、その大部分を教育長に委任されているというふうに理解をいたしております。

教育監の採用につきましては、先ほど申し上げましたとおり、教育委員会で議決をする必要はないということでございますので、教育長の権限で行ったということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

〔26番「私は市長に言ってないですよ」〕

答弁は聞いてください。答弁は。

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと教育部長の答弁に補足をしたいと思います。

私も答える義務がありますので、それは、あまり押しつけないほうがいいと思います。

人事につきましては、議員御存知のとおり、予算を伴う話であります。ですので、そうい

った意味で言うと、市長部局に予算の編成権がありますので、それを議会にまずお出ししたということは、議員さんみんなおわかりのとおりだと思います。そしてうちは、政策部に人事、あるいは組織機構を司る総務課がありますので、そこでの調整も必要であります。

したがいまして、今般、教育監の任命にあたっては、もちろん最終的には教育長が、先ほどの部長答弁のとおり決める話でありますけれども、予算あるいは機構、どのポストにどういう職務権限を持っていただくかということについては、これ市長部局とも十分調整の上、議会にもお諮りをしているところでもありますので、こういう重要ポストでありますので、これは、私、武雄市全体として考えたものであります。

もとより、教育の方針については、教育委員会が議決をする話でありますので、この教育監のポストについても、それに資する手段として、あくまでも目的は、武雄市の教育をよくするために目的であります。そのための、教育長も教育監もある意味手段でありますので、その辺については、我々人事権として任されているものと推察をしております。ですので、御心配無用でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

ほとんど教育委員会として、この武雄市教育委員会の平成 25 年度の教育方針にのっとってみましても、そしてまた、その後の定例教育委員会の議題や議論の、今ほど、報告受けました、私もアクセスしてみましたけれども、ほとんど議論され、さきの答弁でありましたように、10 月——さきの答弁で、教育委員会 10 月 21 日でしたかね。10 月の定例議会の中で、教育監から教育委員会が報告を受けたその議事録がありますけれども、そういう状況であります。

ですから、今回の武雄市教育委員会のこの反転授業の導入については、大方の部分が市長部局からこの教育の導入が進められたと。今の市長の答弁を聞きましても……

〔市長「いや、全然言うたらん」〕

また、教育長の答弁を聞きましても……

〔市長「よう言うよ」〕

その推察が感じられます。私は……

〔市長「全然言うたらんやん」〕

そのことについてはあとで質問します。

〔市長「せんやろう」〕

私は教育長にお尋ねしますが、こうした今の武雄市教育委員会の教育の進め方。私は、今度の補正予算に計上されております、全小学校教育、先生 3,060 人分、約 1 億 2,000 万円のタブレット端末の導入には、私は時期尚早と考え、意見を述べ反対をしたい。

それはなぜか。現場が、本当に、すべての子どもたちが豊かで、そしてのびのびと教育に携わっていく、その環境が整っていないと考えるからであります。さきの答弁でも教育長は、高校でタブレット端末が導入されると報道され、その議論もされております。しかし県の教育庁は、もし個人負担5万円を納入しなければ、入学を考慮する、取り消す。こういうことまで報道されております。これで本当に、のびのびと生きる教育の目的、人格の完成を目指す、この文言と合わせて、私は、逸脱するのではないのでしょうか。

本当にすべての国民が議論をし、本当にこの教育の制度を取り入れるのか、入れないのか。十分議論をし導入することこそ、国民や市民の教育に応える道ではないのでしょうか。

この教育の問題で、最後に、認識を教育長にお尋ねしておきますが、先ほど学力と言われました。そしてまた市長は、この導入はあくまで手段だと申されました。また、教育監が記者発表の中で、武雄市を学力日本一にする。こういうことを記者発表されております。

私は今の武雄市や佐賀県の教育を報道と見る中で、知事は全国平均以上を目指すと言っていますが、今中学校では、佐賀県は41位で、71.2点。九州で一番いいのは熊本県で、19位、73.3点です。わずか2点しか違いありません。

小学校では佐賀県は全国27位で、平均55.8点。九州で一番成績がいいのは、これまた14位の熊本県で56.9点。100点満点ではありません。かっこ付きです。その差はわずか1点だけです。そのわずか1点、2点のことを、知事は学力テスト対策と言って、1,000万円以上の予算を組んで、秋田や福井に1年間教員を派遣して、ノウハウを学ぼうと躍起になっています。

さて、その秋田県。中学校では1位でも、3年後のセンター試験では全国33位。学力テストはこれほどいい加減なものなのです。数値で表される学力向上など、教育ということから見れば、ごくわずかな側面でしかありません。

教育の目標は人格の完成です。その子がその子らしく、人らしく育っていくこと。学ぶことが好きな人になること。こういう子に育てるためには、学びの楽しさを感じる授業が大切だし、教師もそういう授業をつくらなければなりません。

学力テストの過去の問題ばかりをさせて、点数をあげることを目的にした授業の中で、子どもが学びの楽しさを感じられるわけがありません。学力向上対策は、子どもから学ぶ喜びと、教師から教えることの誇りを奪うものではないのでしょうか。

今もし、皆さん、小学校1年生の、来年4月から新1年生がランドセルを背負って、真新しい身なりをして、小学校に登校して、そして子どもたちの授業風景を想像します。学校から送られる教科書、そして自分のノート。そのほかに黒板があります。私どもは、この授業で今まで、学問、学校教育、義務教育を経てきました。（「そろそろ質問してください」と呼ぶ者あり）

今、新たに、電子黒板が導入されて、今3カ所です。（「質問」と呼ぶ者あり）そしてこれ

に、第4としてタブレット端末があります。子どもは、この4つですね、教科書と黒板と電子黒板とタブレット端末があります。本当に子どもたちにとっては、授業風景を想像しますと……（発言する者あり）本当に落ち着いて、先生の話と先生の顔色を見ながら、学ぶ上で本当に、保護者さんが不安を覚えるのは、すごく、至極、そういう思いになられるのは私も同感であります。

ですから、私は最後に教育長にお願いしたいのは、こうした予算があるならば、今、小学校1年、2年は35人以下学級ですよ。ところが、3年生を、小学3年生クラスを35人学級にしようという流れがストップされました。それは、今の安倍内閣になってからであります。（発言する者あり）

〔市長「質問は」〕

ですから、武雄市が取り組むのは、山内町3校の分校があります。ところが3年生で一緒になります。そのときに35人学級だったら、40人だったら1クラスです。（発言する者あり）ですから、1、2年生の時2クラスだったのが、分校と本校が一緒になって、1クラスになるんです。35人を超えてしまいます。

〔市長「質問は」〕

ですから……（発言する者あり）本当に武雄市が取り組むのは、小学校3年生を35人クラスにするべきではないでしょうか。

さらに私はこうした予算があるならば、全国に先駆けて、小学校クラスすべて35人学級、そして1、2年生は30人学級を導入するべき。このことを強く求めたいと思いますし、教育長の認識はどのようにお持ちなのか、お伺いしておきたいと思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

（発言する者あり）静かに。

○浦郷教育長〔登壇〕

たくさんありましたので、すべてちょっと答えられるかわかりませんが。

先ほど教育監が説明した中に、学びの、1時間の学び方というのがあったんですが、あの形はほとんどの先生がやって、前の部分を家庭でやってきましょうということですから、あの流れ自体に先生方の抵抗はないと。そのところにタブレットが入った場合にはどうかというところで、これは非常に極めて意義深いことだと、意義ある方法だというふうに思っております。

それはなぜかといいますと、先ほど言いましたように、やっぱり家庭とのつながりを大事に考えたいということでありまして、私からそういう点数を直々に口に発することはほとんどありませんし、全国平均を追っかけるだけでは意味ないというふうなことは承知をいたしております。

したがいまして、家庭、地域等、皆さんと協力して、市民総ぐるみのというのを5項目目に、方針の5項目目に入れておりますのはそういう意味でございます。そういうことまでよくならないと絶対点数にも反映しないという考えは、前から持っているところでございます。

それから、いろいろありましたけど、これからの時代に本当に必要だということは、もう皆さん御理解いただいていると思います。ですから、その方法として、極力このペースで配付ができるということは、非常に子どもたちにとっても、非常に大きな期待であります。

また、電子黒板等の扱い方についても、武雄市内の先生方、非常に一生懸命頑張っておられて、県下でもですね、本当によく使っていただいているんですね。ですからこれだけのお金をかけるわけでありますので、極力、また、有効に活用をしていきたいと、一緒になってしていきたいというふうに思っております。

また、学級の人数につきましてははですね、私一存でこれまたできることではございません。要望は要望として片方に毎年こうしつつですね、充実を図っていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり、21億円の損害賠償請求をあの議員主導で起こされたりとか、あるいは教育部長とのオフレコの話が議会ではらされたりとか、あるいは私どもの職員の写真を出して、議会を出してうつ病一歩寸前に追い込むという議員の力量を、非常に私は、ある意味評価をします。全く私たちが言っていないことを言ったかのようにおっしゃるといのは、ぜひやめてほしいと思うんですよね。

例えば、これはTBSのNEWS23にも出てきましたけれども、反転授業というのを最初におっしゃったのは、その当時の代田さんが私のところにお見えになって、それで教育長、教育部長同席のもと、こういったことがありますということで。私は正直言って、そのときよくわかりませんでした。

ですが今、武内小学校でタブレットを3年以上前から配付をしているということにかんがみて、試行的にやってみたいということ、教育委員会から私のほうにありましたので、それは教育委員会の専権ですので、それは自由にやってほしいと。ただし学校の先生や子どもたちに過度の負担がかからないようにしてほしいということは、教育長を初め、教育委員会の皆さんたちには申し上げております。

ですので、私が押しつけをしたという事実については一切ありませんし、これはテレビにも出てますので、それは1回確認をしてください。TBSのNEWS23にちゃんと出ています。

それで、押しつけと言われたので、その関連で申しますと、このタブレットの配付は教育

長も答弁してますとおり、全小学生、中学生にタブレット——これ、私から校長の意見も聞いてほしいということを要請しました。その結果、全校長がタブレットについては、武内、山内東のみならず、自分たちのところでもぜひやりたいということが、アンケート結果としてまとまりましたので、それを踏まえて予算措置をしたところであります。

もとより、きょうちょっと手元には資料は持っておりませんが、これたぶん公表されていると思うんですけども、子どもたちのアンケートについても、実際武内、山内東見たときに、非常にiPadを活用することによって、授業が楽しくなったと、学ぶことが楽しくなったということを、非常に高い評価を子どもたちがしてると、多くの子どもたちがしているという意味からして、私たちとしては、その子どもたちの意向にも沿って、ぜひやっていきたいなということが紛れもない事実でございます。

それで、35人、30人。これね35人、30人達してない学校も山のようにあるわけですよね。ですので、僕はこれを否定するわけじゃないです。

やっぱり自分も武雄中学校時代に、マンモスの中学校だったので、なるべくなら少ないほうがいいよねというのは議員と同じでありますけど、ただし、今のシステムのままに、学校の先生に過度の負担がかかったままに、その、何て言うんですかね。そのシステム、制度のままに35人、30人にしても、これは僕は効果が上がらないと思っていますので。

例えば、反転授業であったりとか、タブレットであったりとか、教育長がさまざまに、ここでも御指摘があるような授業と一緒に進めていくような話だと認識をしておりますので、何も否定しているわけじゃありません。

ですので、そこは広範な議論が、保護者を巻き込んでね、あるいは地域の皆さんを巻き込んで議論する必要があるだろうと、私自身は認識しておりますし、この学力テストの公表が、その議論をサポートするためのものであるというように認識をしております。

ですので、最後にしますけれども、もう少し事実関係をちゃんと勉強された上で、御質問されてほしいと。

それと、何度も学校の先生から問題が出てるとおっしゃっていただけますけれども、それはもう少し具体的に言わないと、暗黒質問になってしまいます。ですので、そういう意味で、何がどう問題なのかということを、例えば、黒岩議員さんとか、山口昌宏議員さんはよくそれはおっしゃいます。ここは問題だから、具体的にこうなんだと。だからそれについてどう思うかということについて、我々はその議論に乗れるんですよ。ですが、学校の先生から問題が出てると言っていて、それでまともな議論にはなりませんので、ちょっと頼杖をつかれていただけますけれども、それはとても聞く——私が言うのもなんですけれども、聞かれる態度じゃないと思っています。いずれにしても私はそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26 番 江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

ちゃんと聞いてますよ。

〔市長「頼杖ついてる」〕

いや、たまたま気分です。

〔市長「頼杖ついてるじゃない」〕

私は、市長は、私は教育長に……

〔市長「頼杖つくなよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○26 番（江原一雄君）（続）

小学校のクラスの編成上、定員のことを質問いたしました。この認識をお尋ねしたのに、教育長、何ら認識をお答えいただきません。まして、市長が今までいつも、私の質問に対していろいろ横やりを入れて申されておりましたが、きょうもまた同じ事を繰り返されております。

ですから、教育長にお尋ねします。私が質問しております、小学校のクラス編成の定員数について、認識いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

江原議員。質問の趣旨が、なかなか内容が伝わっていないんですよ。

あなたが、タブレット端末を子どもに配布するお金があったら、35 人学級にきなさいと、そういう考えはありますかと、そういう質問をしたら、的確な答弁が出てくるんですよ。あなたのですね、質問がずっと遠回しになって、広範囲になってきているから、答弁ができないんですよ、的確な答弁が。

〔26 番「議長の話はいいですよ」〕

ですから、そこら付近の質問を十分に、慎重に行ってください。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

〔市長「議長いいこと言う」〕

浦郷教育長

〔市長「議長そのとおりばい」〕

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの長い質問の中で……数点、私、質問かと思ってましたので、お答えをしたところで、最後に学級編成についても、考えを述べたつもりではありますが、再度申し上げたいと思います。

今、全県的には、平均すれば1 学級たぶん二十七、八名という数字が出てこようかと。それだけ少子化の影響が出てきているだろうと思います。

ちょっと市内の数値を、ちょっと持ち合わせありませんけれども、大規模校を除きますとですね、やはり 30 人。41 人で 2 学級にわかれますので、20 人ぐらいの学級が非常に多くなっておりますね。そういう事実がございます。

それから、何人がいいかというのも、これまでも何回も論議が出てきたというふうに思います。少ないとですね、あまり少ないと球技もできないという声等々も一方には出てくるわけでありまして。

ただ、36 人から多いところはないわけで、30 から 35 人のところが多いという印象を受けておられるということでございます。

ですから、さっきの学習方法としての反転授業を考えますと、多い人数の中でわからない子が出てくる、出てきやすい。そういうのをなくそうということですから、そういう効果ですね。どの子にもわかるようにしていくというような、それは 1 つの例であります。そういう面でいろんな手立てを取りながらですね、私の言葉で言いますと、知・徳・体のより高い調和というところに求めていきたいというふうに思っております。

人数につきましては、武雄市で結論づけられるものではございませんので、そのあたりはまた、お聞きいたしておきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

私が質問しているのは、今、教育長が言われたように、40 人学級、小学校ですね。40 人学級、1 クラス。1、2 年生は 35 人学級だと。ですから、小学校 1 年生が 36 人入学してきたら、2 クラスなんですよ。ですから当然、36 を半分に割れば 18 人です。2 クラスになるわけですから。

本当にいい授業内容になると思います。本当に。ほっとしますよね。ところが、（発言する者あり）36 人を超えると……（「注意しろよ、議長が」と呼ぶ者あり）ですから、いわゆる 1 クラスになるんです。

そして、私言いました、山内町の場合分校がありますから、小学校 3 年のときに、これが 41 人になったら、40 人だったら 1 クラスなんです。39 人でも 1 クラスですね。41 人になれば、2 クラスになるわけです。（「それ、わかっとう」と呼ぶ者あり）そしたら 21 人と 20 人になるですよ。だから、35 人学級にするべきじゃないかと言っている。

私はこのタブレット端末の予算があるならば、武雄市はいち早く小学 3 年生まで、35 人学級をし、すべての小学校に 35 人学級を導入し、小学 1、2 年生は 30 人学級へ、推進すべきだということを、このタブレット、市の教育方針についての問題提起をして、1 つ目の教育長に関する質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時1分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

次の、2問目の、市長の政治姿勢について、お尋ねをしたいと思います。

まず最初に、ブログの件と人事について、お尋ねをします。さきの6月議会の中で、私は、5月23日付けの、市長ブログ、教育関係の記者会見を来る7月1日、日曜日午後に行います、また、東京で私が、武雄で教育長が行いますと、表明されていまして。これを、6月10日の、私の6月の一般質問の中で、お尋ねをしたら、待っててください、楽しみにしててくださいと言われました。ところが、6月11日の他の議員の質問では、市長は、これは記者会見を延期しますと、

〔市長「そうです」〕

私の調整能力の不足で……

〔市長「そうです」〕

不徳の致すところでございますとおっしゃった。この一連の経過の中で、日程、日にちが、進んできましたが、この記者会見の中身は、今度の12月の定例議会の一般質問の中で、市長の演告の中で言われました。お許しいただければ、私の3期目につきましては、教育に命をかける所存でありますと、るる申されました。聞いててですね、この問題は、どうも、一連のこの間の経緯とダブるわけですが、

〔市長「全く関係ありません」〕

この真意、中身について、どういうことを、るる、考えておられたのか、わかれば、非常に重要でございますので、御答弁いただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、これ、政治家として、立場を旗幟鮮明にして、こういうことをしたい、すべきであるというのは、着任7年半前に着任してから、ずっと変わらない姿勢であります。それも、限られた密室の場ではなくて、例えば、記者会見の場であるとか、こういった一般質問の場であるとか、絶えずオープンにしていくのも、私の姿勢であります。

で、7月1日の件なんですけれども、これ、与党会派と色々な話をしました。そのときに、これは、あまりにも大きな話なので、もう少し、色々な人たちの意見を、聞いたほう

がいいんではないかという、さまざまなアドバイスを賜りました。これは黒岩議員さんにも、松尾初秋議員さんにも話をし、その上で、いろんな人たちから、いろんな意見を聞くべきだと、いうことがありましたので、そういった中で、私としての判断は、やっぱり、多聞第一、いろんな人の意見を聞いて、しかもこれは、極めて大切な、市にとっても、日本の教育にとっても、大切な話にもなりますので、これについては、与党会派から言われたのは、これだったら、市長の次の公約で掲げるべきだと、それぐらいに大きな話だということで、それはそうだなと、です、年度でその途中の会見よりも、むしろもう少し、いろんな人の話を聞いて、練った上で、公約で掲げたほうがいいじゃないかということで、それはそうだなと思って、さすが武雄市議会だと思いました。その、いろんな議論や、それから、いろんなことを考えて、私は次の公約で、掲げていきたいと思っております。そういった中で、ちょっと今の段階で、まだ詰め切れてない部分がありますので、もう少し、ちょっとお待ちをいただきたいと思っております。しかも、これが是とするか否とするかっていうのは、選挙のときに、市民の皆様方に、有権者の皆様方に、私は判断を願おうと思っておりますので、その中でまた、いろんな話については、させていただければありがたいと、このように考えております。いづれにしても、日時の設定のあり方とあっていうのは、ちょっと先走ったなど、深く反省をしています。それによって、7月1日を楽しみにしておられた方もいらっしゃると思いますので、そういった御期待について、添えなかった部分についてはね、それは、私の不徳の致すところでもありますし、もう少し人格修行に励んでまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

それは、これからのことで、お聞きしたいと思います。

次に、この間の、さきほどの教育長にお尋ねをいたしました、予算を伴う人事のことで、教育委員会としては、教育監のポストについては、私の認識を含めると、市長が予算を9月議会に計上されました。1カ月60万円かけ6カ月分の360万。その他に、共済費入れて、約400万円ですか。で、この人選は市長がされたんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

元々、これも「NEWS 23」にも出ていますけれども、元々、代田さんが、私や教育長に会って、話をしたいということがまいりました。で、この件について、私も代田前和田中学校の校長先生のことは、ずっと注目をしていましたので、そうやってお越しいただければ、ありがたいなと思って、その中で私とすれば、まあいろいろ、反転授業の話とか、教育の話とかというのを、いろいろ御指導いただきました。で、その中で、これから、これは教育長

と話した議論ですので、もし必要であれば、教育長に聞いてほしいんですけども。これは中からの改革だけでは、とても、ちょっとしんどいと、無理だぞということですので、これこそ、私どもが、例えば、病院の民間移譲のときにも行いましたけれども、例えば、蒲池真澄、当時の理事長さんを、医療統括監に、これは、黒岩幸生議員のアドバイスだったんですけども、そういう、外の力を中に取り込んで、それで、市民病院の民間移譲が、円滑ならしめたということがあります。そういった中で、それを現に、ポストとしてつくって、これは先ほど申したとおり、医療統括監を、念頭にありましたけれども、そこで考えたのは確かに私であります。しかし、人事の話ってというのは、教育委員会の場合は、市長部局ほど単純ではなくて、あくまでも教育長が、その中の、任命するという手続きになります。しかし、これは制度上、予算については、これ議会が決める話でありますので、議会に提案できるのは、私しかいません。予算編成権並びに統括代表権を持つ、私しかいませんので、そういう中で、議会に最終的な御判断をいただいたと。

この給与の関係につきましては、次長級のポストであるのと一緒に、あと、校長先生の大体の給与に、こう合わせたということですので、あとは、代田さんが、教育監が実際、その給与に見合う仕事をしてるかどうかということに関しては、議員、議会、そして市民の皆さん、保護者の皆さんたちが御判断されるべき話だろうと思ってますし、私は、きょうの、初めての答弁を聞きましたけど、十分その任には応えてくれるもの、というふうに思っております。そういうきっかけについては、ぜひまたNEWS 23を御覧になっていただければ、その辺の経緯ってというのは、わかると思います。

実際これが、また共産党の新聞とかにね、いろんな、暗黒だとか、いろいろ書かれるかもしれませんが、絶えず聞かれれば、オープンにしておりますので、そこは御心配なきように。それと、いくら共産党新聞とはいってもね、盗撮は、僕はよくないと思っていますので、その辺も、御留意をしていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

変なことを、答弁しないでください。

（発言する者あり）

当てつけのような。

（発言する者あり）

盗撮でもなんでもない。

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○26 番（江原一雄君）（続）

何を、何をおっしゃいますか。私はちゃんと、質問して、その答弁を聞いておりますが、紛れもなく、この教育委員会に教育監のポストをつくったのは、市長だということを今認められたようであります。（発言する者あり）私は、これはほんとに、ゆゆしきことではないでしょうか。教育委員会が、ちゃんと職務権限、いわゆる権限をもったことを、先ほど、法律に基づいて示しました。ところが今、市長自身、市長として、紛れもなく、武雄市教育委員会に、こうした教育監ポストをつくって、反転授業を推進しているのは、もう中教審、先ほど紹介しましたけれども、市長が教育方針を決めて、それを教育委員会が実践していく。これはほんとに、ゆゆしきことではないかと思えます。

〔市長「ゆゆしきことですよ」〕

私は、そういう意味では、この教育監のポストの、この位置づけにしましても、私は先週、議長に、会派としての行政視察を申し入れ、鎌倉市議会、東京杉並区議会の日本共産党市会議員、区議会議員団にお会いをして、調査をしてまいりました。

私は、この教育監の人選には、問題があると指摘せざるを得ません。（発言する者あり）鎌倉市議会の、今年の3月7日の、これ議事録であります。この議事録を見て、仰天しました。この議事録の中では、新しい鎌倉市教育委員会の委員の選任についてという、市長提案であります。ここに紹介されてる方が、自ら撤回を申し入れて、鎌倉市議会が了承をされてるようであります。

〔市長「違いますよ」〕

私は、今回の、この教育監のポストについて、人選に問題があると指摘せざるを得ません。そこで、お尋ねをいたしますが、この間の経緯を見ますと、紛れもなく、教育長にお尋ねしますと、市長が言われました。教育委員会として、いつ、この教育監のポストと、この人選について、紹介があり、決定をされたいきさつ。我々、情報公開を図ると、教育委員会言われてるのに、何ら議事録にも載っていません。そのあたりの報告を、お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

教育監の採用につきましては、教育委員会の議決事項ではございませんので、教育委員会の議事録には載っていないということでございます。

教育監の採用につきましては、決裁を取っております。9月20日付で教育長の決裁がおりております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

暗黒質問には、明瞭な答弁でお答えしたいと思います。

まずですね、これ何度も申し上げておりますけれども、教育委員会の中の、事務方のポストというのは、予算、そして組織機構上の定数、あるいは格付け、っていういくつかの、少なくとも3つの要素が絡むわけです。その中で、少なくとも予算については、これは議会の議決を賜らないと、回りませんので、その部分について、私のほうから議会に提出をして、議会が議決したことであります。そして、この任命権につきましては、これは先ほど部長からもありましたように、教育委員会の議決事項ではなくて、教育長が任命をするということになります。もちろん、統括代表権を有する私が、関与をしないっていうことは、あり得ません。これは先ほど言ったように、予算、組織、機構、格付については、これ市長部局の権限ですので、そういう制度になってるんですよ。だから、これを押しつけないとかそういうのは全くありません。ですので、先ほど申し上げたとおり、これから私どもは、ICTをしっかりとやっていきたいといったことで、その中で民間、なかんずく、僕はよかったと思います、鎌倉の教育長にならなくて。はい、よかったと思います。もうほんとに拾いものだと、思っていますので、そうなんです、拾いものなんです。そういう優れた方がね、武雄でICTの教育についてね、御尽力をいただくというのについては、もうほんとにありがたく思っていますし、再三答弁してましたように、私が、その反転授業とか押しつけるわけがないじゃないですか、僕、押しつけノーマルです。ですのでそれは、これからの教育を考えた場合に、教育監、教育長、そして教育委員会が、推し進めるべきである話だと思っていますので、我々は予算面の中心として、精一杯、教育委員会がやっていただけることを、バックアップすると。

そして、議会の広範な御審議をお願いをして、予算議案の場合は、議決をしていただくというのが、民主主義の流れですので、そこはぜひ誤解なきように、お願いをしたいと思います。そのきっかけをつくるのは、その政治家である私の仕事の一端だと思っておりますし、これを密室で人事をやったとか、そういうのは一切ありませんし、議会で予算を、こう通してもらってますし、今の一般質問で、多くの皆さんたちが、きょう、私にも反応ありましたけど、教育監の答弁は、市長の答弁よりもいいと、いうこともありますので、私は十分その期待に、応えてくださるだろうと、重ねて申し上げたいと思います。性格は私がいいです。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

部長答弁で私がお尋ねをした、教育委員会として、この教育方針を、新たな教育方針を導入する上で、教育委員会でどういう議論をしたかって、お尋ねしておるわけですから、教育長、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

数年と言わずですね、人事関係も携わってきまして、必要以上と言われるぐらいですね、人事に関しては慎重に対応をしているつもりであります。

早く名前が出ることでですね、せっかく来ていただく予定だった方が、来ていただけないっというようなことは、絶対に避けたかったわけでありまして、この点については、他の教育委員さんからもですね、早く教えるべきだと。

ただ、教育監そのもの、あるいは、その改革のあり方とかですね、ICT教育等々については話し、また、議事としては上がってなくてもですね、懇談会しょっちゅうやってるわけありますので、改革の方向についてはですね、説明し、了解し、協議し、してきたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

私は、武雄市教育委員会の、この間の経緯を思いますと、この武雄市の教育の平成25年度の教育、この方針と照らし合わせてのですね、今の教育長の答弁は、本当に市民にとって、また保護者にとっても、ほんとに知らされたのは、新聞情報だけです。そういう意味では、まさに市民と共に教育を司る意味からも、教育委員会として、ちゃんと法に基づいた執行を求めるものであります。

次に、時間もありませんので、図書館問題に移ります。ほんとに昨年来、5月4日に市長が東京蔦屋書店で図書館問題を記者発表して以来、

〔市長「図書館問題なんか発表してませんよ」〕

委託CCCとの業務協定書を合意したことを発表したではありませんか。

〔市長「図書館問題は発表してませんよ」〕

図書館問題です。そこでですね、2、3お聞きしますが。

〔市長「どうぞ」〕

この、8月6日付けの新聞を見て、これもびっくりしたんですが。

〔市長「何ですかね8月6日って」〕

この8月5日に、武雄市図書館に皇室の一人が、お成りになった。そのことが、新聞で報道をされました。話題の図書館とあって、宮内庁側から視察を要望と、これ、新聞記事にも載っていました。8月6日付けです。その日の8月5日の市長のツイッターには、「2カ月前、宮内庁からオファーがあり、腰抜かしました。市の図書館にすごいことです」と発言・発信をされております。それが、このツイッターでの市長の文言です。聞くところによりますと、

宮内庁からはオファーはなかったということですが、実際は、どうだったんでしょうか。オファーは、あったのか、なかったのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、手続の話をしてしまうとね、まず、市がこういうところに、お成りをしてほしいということで、県を経由して、この場合は皇室の、お成りになりますので、宮内庁にお出しをするというプロセスをたどります。今般、教育委員会の、図書館といえども施設ですので、これについて、教育委員会が、国体でお呼びしたということになるので、多分、教育委員会だったと思うんですけども、市の教育委員会から、県の教育委員会に上奏して、県の教育委員会から、宮内庁に上奏しているということで、間違いないですよ、（「高校総体」と呼ぶ者あり）高校総体ね。そのときのお成りについても、同じプロセスをたどっているというふうに認識をしております。で、その中で、私は別に、知ってることは知ってるって言いますし、知らないことは知らないと、どっかの知事とは僕は違いますので、言いますけど、それで、教育委員会から、教育委員会を通じてってということについて、内々やってるっていうのは、僕は知りませんでした。ですので、そういった中で、私もさまざまな、総務省等に12年間もいた経験があって、いろんなところから、いろんな話がきます。きますので、その中の一つの、非公式の話として、まあお願いをしたいということについては、あったのは事実であります。ただし、これが、宮内庁等に情報公開請求もあってるっていうふうに聞いておりますけれども、それについて、公式に、何月何日付で文書等で来たという事実はありません。しかし、さまざまなルートで、私のところには、いろんな話がまいります。これに限らずまいりますので、そういった中で、話があったってことは事実でありますし、それについて私から、これ以上申し上げるものもありません。

いずれにしても、いろんなキャッチボールの中で、いろんなところが、こう決まっていくと。今回の、お成りの件も、そのうちの一環であったし、公式、非公式、いろんな話があります。レベルについても、いろんな話があります。そういう中で、その議論をしていく中で、実際、高円宮妃殿下のお成りが決まっていたということと、私は申し上げたいと、このように思っております。

ただし、これについて私がツイッター上でね、書くということは、自分の影響力等がかんがみたときにね、それは思慮が足りなかったと思っていますので、それについて、宮内庁の関係者の皆様方等には、県もそうですけども、それは、おわびをしたいなど、このように思っていますし、これからは慎重に物事を書いていこうというふうに、思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

この経緯を考えますと、今市長はいみじくも、思慮が足りなかった……

〔市長「はい、足りなかった」〕

おわびを申し上げると言われました。ほんとに、この事実はですね、市長がツイッターに発信されたのは、まさに逸脱なんですよ。

〔市長「逸脱じゃない」〕

それ、認められました。

〔市長「いやいや、逸脱じゃないですよ」〕

私は、これ考えますと……

〔市長「逸脱じゃないですよ。何で、逸脱なんですか」〕

この平成 25 年 3 月 22 日に、佐賀県教育委員会が、武雄市の推薦文書として、平成 25 年 3 月 22 日に、県の教育委員会が、武雄市市立図書館・歴史資料館、および蘭学館について推薦を願い出た文書があるわけです。そこで、お成りになったと。ですから、市長からオファーが、いわゆる宮内庁からオファーがあったということではなくて、これは紛れもなく、宮内庁側のほうが、そういう県の教育委員会の推薦に基づいて、お越しいただいてると。そういう意味では、市長はほんとに、この、今いろいろ国政の場でも、この皇室を利用する、政治問題が巻き起こっていました。私は、この問題は、実際にもありもしないオファーを、宮内庁からオファーがあったなどと、虚偽の発言をして、ブログで皇室のお成りのお一人を、お成りを大々的に取り上げ、皇室におかれては、武雄市図書館を極めて高く評価をいただいたなどと、書くこと自体が、皇室の政治利用に当たるのではないかと、指摘をする質問にしましたが、市長自身、このことを、自ら思慮が足りなかったと、おわびを申し上げられました。この教訓に基づいて、二度とこうしたことがないように、求めておきたいと思います。

次の 2 点目で、図書館問題でお尋ねしますが……

〔市長「議長、答弁させてください」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁を認めます。

樋渡市長（「なんで素直に喜ばれんのかな」と呼ぶ者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私、一切合切をおわびしたつもりなんかないですよ。こういったことをね、皇室に関わるものについて、私は虚偽のことを言ったつもりもないです。ないです。だから、公式、非公式っていうふうに、物事はやっぱあるじゃないですか。その中で、公式のオファーがあったか、なかったについては、それはなかったということについて、申し上げている次第でありますし、さっき、私のツイッターでの発言を逸脱だというのは、私の政治的な発言の自由を封鎖する、共産党らしい質問だと思っていますので、（発言する者あり）それこそが……

ちょっと、私語は慎んでください。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長〔続〕

だからそれを、僕は、暗黒の質問だっていうふうに言いたいんですよ。平野議員、ちょっと冷静になりましょう。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かにしてください、静かに。

○樋渡市長〔続〕

言うても聞かないですから。ですので、そういう中……（発言する者あり）ちょっと平野議員、ちょっと答弁させてください。

○議長（杉原豊喜君）

静かに、答弁中ですので、静かに。

○樋渡市長〔続〕

それ、暗黒のヤジじゃないですか。

○議長（杉原豊喜君）

市長、答弁を。市長、答弁を。

○樋渡市長〔続〕

はい、ちょっと、大人になります。ですので、そういった中で、何を申し上げたいかっていうと、やっぱ、発言すべきこと、そのツイッターの場で、発言すべきことではないということで、僕は、おわびを申し上げた次第であって、一切合切、私がね、虚偽のことをやるとか、何とかっていうことについては、一切ありませんので、それは、ぜひ御理解をしていただきたいというふうに、思っております。いずれにしても、いろんな、何て言うんですかね、今回の場で、やっぱ、肝に銘じなきゃいけないのは、書いていいことと、書いて悪いことがあるということについては、自分の影響力もかんがみながら、それは、虚心坦懐に、誠実に真摯に向き合わなければいけないということ、意を新たにしましたし、これによって、実際、宮内庁の皆さんとか、佐賀県の教育委員会の皆さんとか、市の教育委員会の皆さんにも、御迷惑、御負担をかけましたので、これについては率直に、人間としておわびを申し上げたいと、このように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

次の図書館問題の2点目です。さきの武雄市教育委員会あてに、公開質問状が提出をされて、その回答書がありますが、種々さまざま33項目にわたって、武雄市図書館を考える市民

の会の皆さん方から、質問をされてる中で、こういう回答があります。武雄蘭学館、武雄蘭学館を改修することが決定になってからは、歴史資料館側とともに蘭学館内に配置されていた展示物や、什器等の保管と活用について検討いたしました。一部の活用と保存を除いて、その活用案と保管する場所もなく、やむなく処分することを決断いたしました、というのがあります。ここで、処分されたのは、どんなものが含まれているのか、御答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

図書館・歴史資料館にありました什器類につきましてはですね、答弁で、先ほど答弁もいたしましたけれども、特に書架部分とか、机、いす、こういったものにつきましては、小学校中学校、あるいは公民館を中心にですね、御希望をとって、活用をいただいているという状況でございます。

それから、蘭学館の部分にございました、備品類につきましてはですね、どうしても保管等ができないという部分につきましては、処分をさせていただいたということで、さきの質問状に答弁をいたしておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

ですから、回答されているように、その処分された中身、種類かれこれについて、回答を求めているわけです。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

手元に資料がございませんので、ここでお答えすることができないという状況ですけれども、具体的なものはお答えしておりませんが、全般的にはですね、質問状にお答えをしているということで、御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

まさに、答えられないんじゃないんですか。

本当にですね、この私は、今蘭学館の、武雄蘭学館の役割は大きいなと思ってます。今、NHK大河ドラマで、日曜日夜8時から45分間、まさに日本の近代の歴史の中で、江戸幕末と、そして140年前の、明治維新の歴史ドラマが展開しています。ここに本当に薩長土肥、

そしてまた肥前の藩の役割、佐賀藩の役割、そして武雄藩の役割が彷彿されるようであります。私はそういうときに、この武雄市蘭学館の役割は、ほんとに必要だったということをおぼろげに思っています。ですから、この蘭学館を、本当に今8万点のCCCのDVDレンタル店に様変わりしておりますが、今こそ5年後には蘭学館が元の姿に復活できるよう、市民の皆さんと共に力を合わせていきたい、そう考える1人です。

私は、もうあと5分ですから、市長の政治姿勢の、3番、4番、先ほど質問もありましたので、飛ばして、最後の3番の住民健診について、お尋ねをしておきます。私は今、市民の大きな願いは、本当に健康で、そして健康で長生きできる、そういう日本の豊かな日本をつくっていく、武雄市をつくっていく上で、住民健診の役割は大きいと思っています。私自身も、15年前住民健診をして、あるところにひっかかりまして、その治療を一昨年致しまして、一昨年の6月議会、休会せざるをえませんでした、今本当に元気に、心身共に元気です。

〔市長「よかったですね」〕

はい。ですからここです、私が訴えたいのは、質問したいのは市長にお尋ねしますが、この約7年半の間に、いろんなさまざまな予算計上されてきました。あるいはテレビドラマの予算、あるいはレモンガラスの予算、あるいは今度のシンガポール事務所の開設の問題。さまざま、タブレットの問題もありますが、健康課にお問い合わせしますと、特定健診の対象者が8,617人いらっしゃいます。で、受診者率が2,712名、受診率は31.5%です。わかかもん検診ということで20歳から39歳、この対象者数が1,552人いらっしゃいます。これ合わせますと、1万と169名、受診者数が、2,947名。合わせますと、これトータルで約29%の受診率であります。これ平成24年度の結果であります。私はこの際、本当にこの多くの人が、この健診に無料で、無料で受診できるように、市として取り組むべきではないかと。2分の1は国の制度として国の法律をつくってでも、この住民健診を、受診率を上げていく上で、本当に今求められているのではないかなと、考える一人です。ですから、対象者が、1万と169名、かけ1,000円しますと、約1,000万円です。ですから、この間のいろんな予算計上の中で取り組まれてきましたけれども、本当に健診をして、健康を保つ、そういう制度を武雄から発信しようではありませんか。このことについての、市長の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

江原議員は甘いですね。無料だからといって、行く、行かないんじゃないんですよ。やっぱり家族のためであるとか、自分のためであるとか、そういうお金の問題じゃないんです、命ってというのは。でもそれが法外に高かったら話は別ですけども……終わり……

○議長（杉原豊喜君）

簡潔に答弁を。

○樋渡市長（続）

それは、お金の問題じゃないので、しません。

それともう一つね、まあ図書館のことも、いろいろ言われましたけど、もうあまりにも、やっぱりこうひどくて、ちょっといかななものかと思imasuので、まあ今度3月議会するとき、また楽しみにしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

もう質問終わってください。

26 番江原議員

○26 番（江原一雄君）〔登壇〕

時間がきましたので、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、26 番江原議員の質問を終了させていただきます。